アジア研究教育ユニット 2024 年度教育研究報告書

事業課題名	次世代グローバルワークショップ
代表者名	安里和晃
事業概要 (600 字程度)	<p>次世代グローバルワークショップは、国際連携大学の次世代研究者（大学院生・ポストドクトラル研究員等）と同大学の教員が一堂に会して開催される国際的な研究交流の場である。本ワークショップでは、世界各地から集まった同世代の若手研究者の前で英語により自身の研究成果を発表し、世界の第一線で活躍する研究者から直接コメントを受けることができる。</p> <p>参加者は、国際会議における研究発表の経験のみならず、司会進行など運営にも携わることで、実践的なコミュニケーション力を培う機会を得る。また、英文による論文執筆力を涵養し、国際的な学術誌への投稿へとつながる貴重なステップともなる。</p> <p>本ワークショップは、グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、2008 年より「国境を越えたクラスメートをつくる」を標語に年 1 回開催されてきた。2013 年からは、その活動を京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）が引き継ぎ、現在に至るまで継続的に実施している。</p> <p>本事業は、国際的な視野と高度な研究能力を備えた次世代研究者の育成を目的とし、今後も継続的にその機会と環境を提供していくものである。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）は、第 17 回次世代グローバルワークショップを、2024 年 9 月 27 日～29 日に開催しました。今年度は「Transculturality and Sustainability: Navigating New Horizons」をテーマとし、ハイデルベルク大学京都オフィスおよび DWIH Tokyo との共催で開催しました。今回のワークショップには世界中から多くの応募があり、その中からインドネシア、台湾、アメリカ、ドイツ、日本などの国々から 18 名の若手研究者が選出されました。</p> <p>3 日間にわたり、移動とトランスカルチュラルリティ、社会経済と福祉、持続可能な未来に関する発表が行われました。初日にはモニカ・ジュネジャ ハイデルベルク大学教授、2 日目にはテオドール・リチャード 国立中興大学教授による Keynote Speech が行われ、トランスカルチュラル・スタディーズに関する新たな視点が提供されました。</p> <p>2 日目の夜には、想田和弘監督によるドキュメンタリー映画「五香宮の猫」の上映会が行われ、参加者との Q&A セッションも実施されました。</p> <p>最終日のラウンドテーブルとプラナリーセッションでは、トランスカルチュラル・スタディーズの方法論に関して活発な議論が交わされ、学際的な知見を深めました。参加者からは「異なる分野の研究者との対話を通じて新たな視点を得た」といった感想が多く寄せられました。</p> <p>京都大学アジア研究教育ユニットでは、今後も次世代研究者の国際的な学術交流を促進し、若手研究者が世界で活躍するための基盤を提供していきます。（再掲）</p>